



# こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより  
第2号  
平成30年6月13日発行

## ◇平成28～30年度 岐阜教育事務所指定研修校を紹介します。◇

4月19日岐阜県総合教育センターにおいて、平成30年度事務所指定研修校連絡会が行われました。参加いただいた各校の代表の先生には、自校の研究推進の方向について改めて見通しを明確にさせていただきました。

以下の学校が、岐阜地区管内の教育をリードする指定研修校です。

| 縣   | 番  | 学校名           | 教科・領域                                   | 縣  | 番  | 学校名         | 教科・領域       |
|---|----|---------------|---|--|--|-------------|-------------|
| 岐阜市   | 1  | 黒野小学校         | 算数(低学年)・英語(第3学年)・<br>社会(第4学年)・特別活動(高学年) | 瑞穂市  | 11   | 本田小学校       | 道徳          |
|   | 2  | 岐北中学校 11/15   | 総合的な<br>学習の時間                           |  | 12   | 牛牧小学校       | 生活科・理科      |
|   | 3  | 岐阜特別支援学校 1/25 | 小学部：生活単元学習<br>中・高学部：作業学習                |  | 13   | 生津小学校       | 英語          |
|   | 4  | 柳津小学校         | 理科・社会<br>生活・特別支援教育                      | 本巣市  | 14   | 席田小学校 11/20 | 国語          |
| 羽島市   | 5  | 竹鼻小学校         | 全教科                                     |  | 15   | 真正中学校 10/10 | 全教科<br>人権教育 |
|   | 6  | 竹鼻中学校         | 全教科                                     | 羽島郡二町  | 16   | 西小学校 10/24  | 特別活動        |
| 各務原市  | 7  | 那加第二小学校       | 全教科                                     |  | 17   | 笠松小学校       | 道徳          |
|   | 8  | 那加中学校 11/8    | 全教科                                     |  | 18   | 笠松中学校       | 全教科         |
| 山県市   | 9  | 高富小学校         | 国語・算数・体育・外国<br>語活動・道徳・特支教育              | 斐<br>野   | 19   | 北方中学校       | 全教科         |
|   | 10 | 高富中学校         | 全教科<br>特別支援教育                           |  | 【参考】道徳教育パワーアップ研究協議会<br>パワーアップ実践校 本巣市立糸貫中学校 10/18 |             |             |
| 【参考】教育課程研究指定校事業(理科)<br>岐阜市立長良中学校 11/3                 |    |               |   | 【参考】新たな学びに関する資質向上のためのプロジェクト<br>各務原市立那加中学校 11/8 |  |             |             |
| 【参考】学校におけるカリキュラム・マネジメント充実事業<br>羽島市立桑原学園義務教育学校 2月に公表予定 |    |               |   | 【参考】小学校外国語活動スタートアップ事業<br>岐南町立西小学校 10/24        |  |             |             |

上表中の、下線の引いてある学校は、本年度公表会を開催します。右横の数字は、公表会開催予定日です。ご自身の教職経験の多少に関わらず、自校の管理職の先生に事前に相談の上、積極的に授業を参観されてはいかがでしょうか。



管理職の先生方におかれましては、若手教員の方々が積極的に参観できるようご検討いただけますと幸いです。



また、公表会開催予定の学校には、岐阜教育事務所教育支援課学校教育係の担当者が中心となって、児童生徒の「学ぶ実感」を育むことができるよう、積極的に支援させていただく予定です。



## 生徒指導のポイントをまとめてみました



### ＜生徒指導の基本は3本柱＞

**生徒指導とは、自己実現を図っていくための自己指導能力を育成することです。**

・生徒指導とは、問題行動への対応だけではありません。すべての教育活動を通して、児童生徒一人一人の心を育て、それぞれの人格のよりよき発達をめざすとともに現在及び将来において自己実現ができるよう指導・援助するというのが、生徒指導の本来の意義です。

○自己指導能力: その時、その場で、どう判断し、実行(行動)するのか。つまり、適切な判断で行動できる力のことです。

○判断する際の「適切性の基準」: 人権や命を大切にすること、法律やマナーを守ることを含め、自分だけでなく、周りの人のためになるかどうかです。

### 自己指導能力を育てる生徒指導の3機能

| <b>児童生徒を共感的にとらえ、理解できる</b><br>・その子の行動にある思いや背景を理解し、寄り添う   | <b>児童生徒の自己決定を促すことができる</b><br>・自分がどうあるべきかを決めさせる  | <b>児童生徒が自己の存在感(居場所)を味わうことができる</b><br>・その子(学級)が自分(たち)で決めたことについて見届け、達成するための努力やできた事実を認める  |
|---|---|--|
| その子の事実に見え隠れする背景を多面的に捉える努力をすると、その子が、なぜそういう行動をとったのか見えてきます。その子のとった行動に対する理解、それも、行動は許せなくても、心には理解が生まれます。これを共感的理解と言います。「なぜ、自分はこんなことをしてしまったのか」を自覚できることが大切で、子ども自身がわかっていないこの部分を自覚させることは、次の行動の抑制(=自律)にもなります。<br>◆背景<br>①家庭環境    ②経済的<br>③父母        ④兄弟姉妹<br>⑤祖父母     ⑥成育歴<br>⑦友人関係   ⑧趣味や特技<br>⑨各種能力   ⑩心の深手 | 事実掴み<br>↓<br>自己凝視<br>↓<br>自己受容<br>↓<br>自己理解<br>↓<br>そのうえでの<br>自己決定<br>↓<br>共に歩む<br>↓<br>見届け<br>評価 | 子どもたちは、自分自身や自分たちのことを考え決めたことであれば、多少のトラブルが発生しても何とかやりきっていきたいという意欲があるため、くじけずにやっていきます。<br>でも、意欲を無くすほどのトラブルが発生すれば投げ出したくもなります。そんな時に先生の出番があります。つまりきを克服する援助をすることも仕事です。子どもが意味のある自己決定をする支援が大切になります。<br>☆自己決定は問題行動発生時のみに必要なことではありません。自己実現の基礎は、日常の様々な自己選択や自己決定にあります。自己決定の場を豊かに設定することが必要です。<br>「自分なんか必要じゃないんだ」と思うことは誰であってもつらいことです。子どもであればなおさらのことです。子どもが自己決定し、そのうえで自己努力し続けたことが、自分や自分の所属する集団に認められることが、充実感につながります。<br>このような活動を学級の中でたくさん生み出し、それを認め、価値付けていくことが重要になります。手立てを講じなければできないことだからこそ、担当が活動を組織するのです。その活動を通して、自分に負けずにやりきれた満足感や仲間と共にやりきれた充実感を数多く体験させることが重要です。さらに評価を丁寧にしていくことが必要になります。 |

#### ◆自己決定について(補足)

- 自己凝視: 自分の行動、そのときの自分をじっくりと見つめること
- 自己受容: 自分のよさも弱さも含めて、ありのままの自分を受け止めること
- 自己理解: 自分がどういう自分であるかを客観的に理解できること。他人から見られている自分(自己理解)とのずれまで理解できること
- 自己決定: 願いに向けて、何をすることが必要なのかを決めること
- 自己評価: 自分の決めたことが、どれほどやりきれているかどうかを客観視しながら振り返ること

### ＜先生方へ＞

子どもとたくさんおしゃべりをしましょう。子どもは、たえず先生に認めてもらいたがっています。子どもは、先生が自分をどう思っているのか、何を期待しているのかを知りたがっています。子どもの話題に耳を傾けてみましょう。子どもの気持ちや関心、よさ等をつかむことができます。人は、とりとめのないおしゃべりを交わすうちに親密になり、相互理解が深まり、本音で付き合おうとします。時には、気負わないで「どうしたの」と子どもの気持ちに寄り添い「じゃあ、どうしようか」と一緒に悩むことも、「どうしたいの」とおおらかに構え「何でも聞いてあげるよ」と見守ることも子どもとの距離を縮め、信頼関係をつくることにつながります。